

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401221		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 緑葉の家 1号館		
所在地	名古屋市緑区水広三丁目715番地		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2371401221-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「長生きしたくなる家」を最終目標として、その実現に全職員で取り組んでいます。 ・固定された日課・画一的な押し付けの介護から脱却し、「その時」の「その人が望む」最適な介護サービスの提供を目指しています。 ・入居前の生活環境との断絶を回避できるように、最大限の支援に取り組んでいます。 ・一事業所の枠内に留まらず、様々な地域資源・他事業所との連携を強化し、入居者・ご家族の要望に応えるべく努力しています。 ・毎月の行事企画や外出支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は管理者と1名以外全員女性、かつ主婦が大半で、また利用者も全員女性とあって、フロアには穏やかで和やかな空気が流れており、入居見学に訪れる家族も場の雰囲気とともに、「全員女性」と聞くと「ここに決めようか」となることが増えています。事業所全体で食べたいもの、美味しいものを提供しようと常に意識しており、甘いものが大好きな利用者が多いことから、駐車場を含む玄関先を利用して戸外でスイーツを愉しむ機会を頻回につくっています。一方で「太りすぎは禁物」と、バイタル、体重測定によりこまめに体調を把握、水分摂取とバナナ、ヨーグルトに因る便秘対策にも余念がありません。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・玄関に掲示してあり確認できる様になっている。 法人の掲げる理念及び運営目標が書いてある朝礼FAXを職員で毎週読み上げ皆で共有している。	管理者が考える「グレーゾーンをなくしたい」との想いを基盤に、職員が各階(ユニット)で課題をあげ、曜日毎に「本日のゴール(目標)」を定めていて、日々改善向上に向けた取り組みがおこなわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を利用者と共に届けたり、地域清掃や廃品回収にも積極的に参加している。行事等近くのコンビニ・ドラッグストアに駐車場を貸してもらっている。散歩時の挨拶や畑から野菜を頂いたりしている。運営推進会議等声かけて参加・意見をいただいている。自治会の防災訓練に参加している。(今年はコロナウイルスの影響で一時的に中断となっている。)	散歩のときの挨拶から始まり、収穫の野菜が届くこともあり、また回覧板から情報を得て廃品回収や清掃に参加しています。一時中断していた地域活動は、コロナ禍の山を越えたとして、清掃をはじめ再開しつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し地域清掃に参加している。運営推進会議では介護を取り巻く現状や勉強会を家族や地域住民・包括職員を交え意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緑区北部いきいき支援センター職員・近隣住民にも積極的に声かけ参加していただいている。 現状報告以外に、介護保険法の変更点や法人からの報告・認知症介護の現状・高齢者の特徴などの勉強会も行い職員からの意見も発表している。 家族の意見や心配事など聞き取り記録しホームの運営に反映させている。	管理者が近所を廻り、認知症に関わることを中心に話を聞くことで、運営推進会議への出席につなげています。奇数月の隔月開催として3月からは駐車場に椅子を持ち出して、場のみ変えての通常開催で実施しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催している研修に参加し推進会議時に発表したり職員に伝達し情報を共有している。 市・区役所の担当者来設時や出向いた時などに、事業所の現状を報告するとともに、サービス向上のアドバイスをいただいている。	3月、5月の運営推進会議は、地域包括支援センター側がコロナ禍のリスクを鑑みて欠席でしたが、これまでは全出席を得ています。「介護ネット」は月数回確認するようしており、また生活保護受給者が1名いるため、保護・子ども係とも連携しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の年2回の法定研修や3月に1回身体拘束適正化検討委員会を開き身体拘束についての理解・確認を行っている。 職員の疑問に対し法人の研修内容やマニュアルを参考にして話し合いを行っている。各フロアの事務所に、職員の目の届くところにマニュアルが設置されている。	身体拘束廃止未実施減算に係る取り組みは都度完遂しており、漏れはありません。「これは身体拘束にあたる」「あたらない」は管理者の目配り、気配りで職員に周知され、更に気になる点は委員会の会議であげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に組み込まれており、ミーティングや職員会議時などにも、グレーゾーンについて虐待につながる恐れが無いかを確認している。朝礼FAXに虐待根絶サービス委員会より虐待根絶にむけて呼びかけがあるので職員で読み上げている。虐待の芽チェックリストを使用して自己確認を行っている。法人より配布された高齢者虐待防止テキストを活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月利用されている入居者がいるので、来設時話し合いの機会を設け情報交換を行っている。 支援が必要と思われる入居者・ご家族には、制度を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書類を渡して、自宅で確認する時間を設けている。入居時や退去時の相談時不安や疑問などの聞き取り時間を設け納得したうえで入居・退去を心掛けている。介護保険改定の際、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「気付いたことがありましたら遠慮なく相談して下さい」とのブラカードを掲げている 玄関に政本グループが目指す介護サービス7項目が掲示してあり本部の連絡先が載っている。 ホーム来設時や請求書を渡すとき・運営推進会議等に参加された御家族様からの意見や感想をホーム運営の参考にしている。	毎朝6時からラジオ体操に訪れる利用者家族もいて、お菓子や果物、野菜の心づけもあり、運営推進会議には概ね半数(9名~11名)の出席が得られていて、家族とのコミュニケーションは充実しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与、勤務疑問110番・政本グループ人事委員会からの相談受付等事務所に貼りだしをしている。職員会議、1号館・2号館合同ミーティングなどで、意見交換を行っている。 社内研修において職員間でホームの改善点や運営について話し合いを行い改善に役立	職員会議を毎月開催、利用者への声かけ一つでも課題をあげての協議が叶っています。 母親が最初働いていて、後に娘が入職したケースや利用者家族の紹介もあり、「働きやすい」環境にあることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産性改善委員会を立ち上げ残業ゼロを目指している。 基本給の引き上げや地域手当の加算だけでなく、実績に応じた手当支給や利用率による達成手当及び経験・技能のある職員を中心とした特定達成手当が支給される。有給休暇の取りやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修の他、毎月の社内研修や管理者研修等、法人内での研修の場を継続的に設置している。 月給正社員規定、日給正社員規定が定められ、社員研修(G課程)を行っている。 外部研修の際にはシフトの休暇を優先している。資質向上のための計画が掲げられており、資格等取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は可能な限り介護職員を実態調査等に同席させる事によって、同業者との交流・人脈づくりを支援している。 入居相談時ケアマネージャーや相談員をホームに招き入れ、活動内容や状況を話し合っている。職員を研修に参加させることにより他事業所の職員と交流機会ができた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて事前面談や見学を数回実施して、ご本人との信頼関係構築に努め、ご本人が納得された上での入居に至るよう心掛けている。実態調査をホームで行うなどして実際に雰囲気を見ていただき、ユニット職員も調査内容に目を通し把握するよう努めている。実態調査がホーム外でも職員も同行し対話の場を設け、嗜好や趣味などを伺い信頼関係を築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に、数回にわたって相談の場を設定し、相談までの経緯や今後のご希望を詳しくお聞きする事により、ニーズの把握や信頼関係の構築に努めている。入居相談の際、必要であればユニットの職員も同席して面談を行っている。自宅で習慣にしていたサプリメント・飲料水など継続できるよう支援していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや病院関係者等とも連携し、当ホーム入居だけに固執せず、他系列・他種サービス等の他事業所への紹介も含めて、最善のサービス提供方法を検討している。持病や治療中の歯科など家族の支援も含め継続して行えるよう話し合いを行っている。 初回ケアプラン作成にあたり本人・家族の望まれていることの聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いを通してのレクリエーションや生活リハビリをはじめ、入居者・職員がお互いに支えあえる雰囲気づくりに努めている。 モップかけや手すり拭き・家事支援などの手伝いをされています。 ラジオ体操・嚙下体操など職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の企画に家族の方に参加していただき、関係作りを務めている。 玄関や庭先にて面会を行っている。 家族が来設され喫茶店に行かれました。 野菜や果物の差し入れを頂き食材として利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味の会の教え子が作品展に招いて頂き交流が続いています。 コロナウイルスで外出や面談に影響でありますが、昔の写真を見て思い出話をされました。	書道や縫い物を続ける人や、伴侶が「以前どおり」と水広公園への散歩に誘い、また珈琲・深層水・乳酸菌飲料を継続する人もいます。趣味の絵画を居室に置く人は、弟子だった人の「展示したい」との申し入れから、貸し出したこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	パズル・数字合わせ・カルタやトランプなど複数の利用者で行い教えあっている。 気の合う者同士・合わない者同士の把握をし人間関係の調整に努めている。 ラジオ体操・リハビリ体操を行い声を掛け合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から手紙などを頂き返事を送りました。 転居先に定期的に向き面会や話を伺いに行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に散歩に出たい要望があれば出来る範囲で行っている。 ケーキやアイスクリーム・など購入して食べて頂いている。 夏はかき氷を作ったり、庭先でおやつを食べたりして楽しみを作っている。	入居したてはエスケープに留意し、居室担当者を中心に慣れるまで職員総意で気にかけて観察に努めています。また、入居時には家族から生活環境など聴取しますが、暮らしていく中で本人から聞いて家族も知らない驚きの発見に至ることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居生活の方は近隣の方が定期的に来設され情報を頂いている。入居後も家族・関係者から情報を収集し、入居前から続けていた飲み物などの差し入れなど継続して出来る様、職員が情報を共有できるよう努めている。実態調査時、以前の暮らしや生い立ちについて話を伺いながら情報収集を行っている。以前のケアマネと繋がりを保ち情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護詳細記録を毎日書くことにより、状態を細かくチェックしている。 看護記録を確認し状態の把握に努めている。必要であれば毎日の検温・血圧計の測定・入浴時は全員測定をしている。 朝礼時変化のある利用者の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に、ご本人の望む生活、ご家族の要望を事前に文章にて伺い、介護計画作成時に役立っている。 毎月家族の来設時近況報告を行い意見を頂いている。 サービス担当者会議を開き現状の課題など話し合っている。	介護記録(食事量、入浴の有無などとともにモニタリング)、介護詳細記録(利用者の言動に係る細かな点)を通じて日々の把握を密とし、家族意見は電話や面会のほか「サービス提供情報票」からも得て、総意で介護計画を作成しています。	担当者欄に職員だけでなく、多様な人の関わりがあるよう意識した作成過程があると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・詳細記録・看護記録・ノート等を利用して心身の状態把握に努め、業務に入る前に読み口頭での申し送り2重で行っている。 フロアミーティングやミニカンファを定期的に行い、日々の気づきを話し合い介護計画の見直しに活かしている。 服薬の変更等職員全員が把握できるよう申し送りノート・受診記録に記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得られない方に対し、身の必要物品の買い物等支援している。急変時家族で対応できない時など、受診の付き添い及び救急対応・救急車の同乗・入院の付き添いを行い、なるべく退院出来るよう医師・家族と話し合いの場を設け退院支援を行っている。時間外の面会・入居相談にも対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や地域の自主防災訓練や店舗にも積極的に向かい、緊急時にもスムーズに協力していただけるように連携を図っている。 介護タクシーや介護用品業者との関係を強化し、様々な要望に対応できるようにしている。 近隣の喫茶店・コンビニ・ドラッグストアに出向き相互的に関係を築いている。(コロナで一時的に中断)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診の他電話相談もできる。 往診来設時、病状の相談にも対応していただいている。 事前にファックスを流すことにより、必要な処置をスムーズに行うことができる。歯科の場合は治療の他口腔ケアも行っている。 内科・皮膚科・歯科の訪問診療があり施設内でも充実した治療が受けられる。	隔週で訪問診療に訪れる協力医に、全員が変更しており、立ち合いは早番の職員がおこない、「受診記録」に医療情報を残していません。他科受診は通常家族にお願いしており、熱発など緊急の場合は職員が付添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤時、状態や症状を伝え受診の必要性などアドバイスを頂いている。 介護記録、介護詳細記録、受診記録、往診ノートを活用し看護アドバイスの活用に繋げている。 出勤時以外は電話・メールにて情報の共有を行っている。必要時主治医に相談連絡を入れる。 職員は看護記録の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、家族・病院関係者との日程を調整し情報交換を定期的に行い、早期退院・帰所を目指している。 協力医や看護師からも、積極的な調整協力を頂いている。入院時ADL報告書を作成し医療従事者が対応しやすいよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった場合、個別に話し合いの場を設けて方針を決めており本人・ご家族の意向に沿うべく、看取りだけではなく、医療機関や他施設への転居等も含めて最善の対応に努めている。入居時や運営推進会議等でも家族から意見を頂いている。	重度化の傾向が現れてくると、家族と話し合いの機会を重ね、医療が必要となれば移設の支援をおこなっています。看取る場合は口徑摂取が基準で、できなくなると医療施設へお願いすることになります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、主治医に電話相談を行い緊急性の判断を頂いている。社内研修の他、緊急時の対応手順書を掲示しており、落ち着いて対応が出来るように準備している。救急隊への情報提供表・ADL報告書も定期的に見直しをし、救急隊に渡すことができるよう準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災情報一覧表を作成しており、ライフラインの連絡先がまとめられている。実践的な避難訓練を5月と11月に(昼間想定、夜間想定)実施している。5月は水害訓練実施。災害対策マニュアルが事務所に掲げてあり、いつでも閲覧することができる。毎朝自衛消防組織担当の確認を行っている。自治会の防災訓練に参加することにより、協力体制が取れるよう努めている。保存食の期限の確認・ランタンの準備をしている。	5月、11月実施を年間計画として定めています。防火管理者が中心となり、5月は風水害でおこない、11月は消防署から水消火器も借りて火災・地震想定の実施です。また地域の防災訓練は毎年参加しています(本年は中止)。	新規採用者のオリエンテーションに、避難経路と通報装置の操作説明を加えることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応にならないよう、職員会議や毎日の朝礼時・ミーティング・職員会議等によって接遇の徹底を図っている。 利用者の気持ちや言葉を受け入れ、できる限り丁寧で安心できる言葉遣いを意識している。	「1日の目標」に取組んでからは課題のあった職員の対応も徐々に改善向上しています。生活の場であることを常々職員伝え、利用者を選択する機会をつくり、自己決定を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯の量や新聞を読みたい方の個人購入など、可能な限り本人の希望に合わせた対応をしている。 職員が積極的に話しかけ、会話の中で利用者の思いややりたいことなど意見を聞くよう心掛け、出来る範囲で対応している。 自己決定しやすいよう簡潔に話している。 洗濯物を出したい方は籠を用意し洗濯を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって生活の場であることを常に意識して、書き物やゲーム、新聞を読む時間を作り、毎日を穏やかに過ごせるよう、支援に努めている。 居室で過ごされたい方は自由に横になる時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の店舗に季節に合った洋服を買いに行ったり、爪切りなども定期的に行っている。 理美容時髪長さやパーマ・毛染めなど本人の希望に合わせて対応している。リップクリーム・乳液・ヘアクリームなど購入され使用している。 産毛剃りを使用している方は職員が手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下や咀嚼の状況をみながら、食事形態を定期的に評価し食べやすい形状で提供している。 プレートを使用した食事やパン食なども取り入れている。 利用者同士の関係に変化がある場合、席替えをしている。	1週間毎にメニューを決め、地域のスーパーマーケットに出かけています。ユニット毎に献立が異なるとともに、職員の経験値によっても違いはありますが、「家庭の味」としてそれぞれの味わいを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況により個々に食事量を考慮し提供している。 夏場など暑い時期は食事前にお茶を提供し脱水防止に努めている。嚥下の状態が悪い方は刻み食やミキサー食を提供し栄養確保に努めている。個別に珈琲・電解還元水・ヤクルト・プリン・アイスクリーム・ゼリーなどの提供を行っています。医師より栄養補助食品の処方をして頂いている方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の協力を得て、定期的に口腔内の健診を受けている。食後に口腔ケアを行い、誤嚥防止のため口腔内の確認が必要な方は職員が確認を行っている。ポリデントを使用し入れ歯の清潔を心がけている。歯ブラシやコップの清潔保持にも気をつけている。総入れ歯・ブラッシングできない方はうがいを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が保てない方に2人介助にて、1日1回以上トイレでの排泄を行っている。 定期的に声かけをして介護拒否がある方もトイレでパット交換できるよう努めている。 立位の保てる方はトイレで排泄し、ズボンの上げ下げが出来る方は自分でできるようケアに努めている。	立位が保てるうちは「トイレ」としていますが、現状は10名余の人が独歩でトイレに向かっています(介護度1と2は7名)。利用者本人の気持ち良さとともに家族の経済的負担も考慮してパットの試用頻度についても意識しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族の支援による水や乳酸菌飲料の提供なども行っている。 適切な水分摂取量の維持や毎日の散歩やラジオ体操を取り入れている。 便通によいバナナやヨーグルトの提供をしている。 必要に応じて主治医・看護師と相談して便秘薬の量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順にこだわりのある方には極力要望に応じられる様、順番表を作成して対応している。 1日おき～週2回等、入浴頻度も固定していない。希望に応じて個別対応や人間関係に配慮し、柔軟に対応している。湯船につかりたい人、シャワー浴がいい人など個別に対応している。体調の悪い方には清拭や陰部洗浄を行っている。ゆず湯など季節のわかる工夫や足湯をされている方もいます。	水まわりは5Sが行き届き、大変清潔です。 週2日の入浴を衛生の目安とし、本人のADLや希望によって増やすことにも応えています。 が、職員の年齢もあがっていて2人介助はできず、浴槽をまたげなくなったらシャワー浴となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で休めるよう支援している。 重度化された方などはクッションを使用したりして、楽な姿勢になる様に工夫をしている。 光や温度の調節を行っている。 浮腫のある方は足を挙上して休まれている。 寝具の清潔を保ち睡眠の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には飲み込みまでの確認を行っている。 入居時など薬が多い方は主治医に相談し、適切な量になるよう調整を行っている。処方箋を協力薬局にて一元化して管理している。薬の一覧ボードを作り一目でわかるようにしている。薬の変更時、申し送りノートや受診記録に記入し職員皆が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	珈琲や紅茶を飲まれる方が多く、味の濃さも個別に合わせている。カルタ・数字合わせ・トランプなどを利用者同士で声を掛け合いながら行っている。食器拭き・掃除機かけ・洗濯物たたみ・モップかけ・手すり拭きなど、その人に合った手伝いを行っている。 散歩や外気浴・喫茶外出をする機会をつくり気分転換を図っている。趣味の書道や裁縫が活かせるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭でおやつを食べたり散歩・外気浴を行っている。 毎年の外出行事には、ご家族の参加も募っている。季節によってピクニック・紅葉狩りなど行います。	初詣やしだれ梅の鑑賞、公園までピクニックを恒例の外出行事と位置付け、コンビニエンスストアや喫茶店への個別外出も支援しています。また甘いものが好きな利用者が多く、コロナ対策として戸外でスイーツを楽しむ日を頻回につくっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では事業所が金銭管理を代行している。コロナウイルスの影響で外出自粛により、職員が食べたい物や必要な物を聞き取り、買い物代行している。金庫管理者を増やすことにより、事前に用意をし柔軟に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	封書・便箋の用意をして家族との関係を維持している。 外部から葉書等届いた場合は家族にも連絡し見せていただいている。 必要であれば、日常的に電話を使用できるように支援している。 普段から文字が書けるよう毎日練習をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に暖簾をかけて雰囲気作りに努めている。季節毎に利用者で作成したちぎり絵(花・風景)、行事の写真やポスターを作成しリビングに貼り季節感を出している。湿度や温度はデジタル温度計を使用し調整を行っている。昼間はカーテンを開け明るくして定期的に換気を行っている。	包装紙を上手に活用してちぎり絵を皆で制作したり、職員が手作りの数字合わせゲームに興じたりと、リビングには和やかな空気が流れています。コロナ禍となったからと変わらず以前から夜間も天窓を開けていて、清掃方法も同じです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はどこでも自由に過ごせるようにしており、リビングを椅子席とソファスペースに分け、自分の好きな場所できつろげるようにしている。定期的に状況を見てソファの位置やテレビの位置を調整し利用しやすく工夫している。 座布団を持ち運び自分の場所を確保している方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床にカーペットを敷いてテレビを観たり、和風の生活空間を楽しまれている方もいます。自宅から持ち込んだ家具やテレビ等設置する際、自由に持ち込み使用している。飼っていたペットを思い出せるよう、関連ポスターを部屋に飾られている。書道や若い頃の写真の作品を飾っている。	洗面所にはブラシや歯磨きセットが並び、女性らしさが感じられる点に安心感が湧きます。また、転倒骨折した人はベッドから床への移動についてリスクが高いとして、家族とも相談のうえ、現在クッション性のあるマットを敷いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印など場所がわかりやすくしてある。 シルバーカーや車イスで自走できるバリアフリーや電動ベッドの導入・立ち上がり手すり・トイレに設置されている可動式レバーなどがあり、安全に生活するための環境が施してある。福祉用具・備品に不備がないかチェックし、安全に使用できる		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401221		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 緑葉の家 2号館		
所在地	名古屋市緑区水広三丁目715番地		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyogyoCd=2371401221-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「長生きしたくなる家」を最終目標として、その実現に全職員で取り組んでいます。 ・固定された日課・画一的な押し付けの介護から脱却し、「その時」の「その人が望む」最適な介護サービスの提供を目指しています。 ・入居前の生活環境との断絶を回避できるように、最大限の支援に取り組んでいます。 ・一事業所の枠内に留まらず、様々な地域資源・他事業所との連携を強化し、入居者・ご家族の要望に応えるべく努力しています。 ・毎月の行事企画や外出支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は管理者と1名以外全員女性、かつ主婦が大半で、また利用者も全員女性とあって、フロアには穏やかで和やかな空気が流れており、入居見学に訪れる家族も場の雰囲気とともに、「全員女性」と聞くと「ここに決めようか」となることが増えています。事業所全体で食べたいもの、美味しいものを提供しようと常に意識しており、甘いものが大好きな利用者が多いことから、駐車場を含む玄関先を利用して戸外でスイーツを愉しむ機会を頻回につくっています。一方で「太りすぎは禁物」と、バイタル、体重測定によりこまめに体調を把握、水分摂取とバナナ、ヨーグルトに因る便秘対策にも余念がありません。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・玄関に掲示してあり確認できる様になっている。 法人の掲げる理念及び運営目標が書いてある朝礼FAXを職員で毎週読み上げ皆で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を利用者と共に届けたり、地域清掃や廃品回収にも積極的に参加している。行事等近くのコンビニ・ドラッグストアに駐車場を貸してもらっている。散歩時の挨拶や畑から野菜を頂いたりしている。運営推進会議等声かけて参加・意見をいただいている。自治会の防災訓練に参加している。(今年はコロナウイルスの影響で一時的に中断となっている。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し地域清掃に参加している。運営推進会議では介護を取り巻く現状や勉強会を家族や地域住民・包括職員を交え意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緑区北部いきいき支援センター職員・近隣住民にも積極的に声かけし参加していただいている。 現状報告以外に、介護保険法の変更点や法人からの報告・認知症介護の現状・高齢者の特徴などの勉強会も行い職員からの意見も発表している。 家族の意見や心配事など聞き取り記録しホームの運営に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催している研修に参加し推進会議時に発表したり職員に伝達し情報を共有している。 市・区役所の担当者来設時や出向いた時などに、事業所の現状を報告するとともに、サービス向上のアドバイスをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の年2回の法定研修や3月に1回身体拘束適正化検討委員会を開き身体拘束についての理解・確認を行っている。 職員の疑問に対し法人の研修内容やマニュアルを参考にして話し合いを行っている。各フロアの事務所に、職員の目の届くところにマニュアルが設置されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に組み込まれており、ミーティングや職員会議時などにも、グレーゾーンについて虐待につながる恐れが無いかを確認している。朝礼FAXに虐待根絶サービス委員会より虐待根絶にむけて呼びかけがあるので職員で読み上げている。虐待の芽チェックリストを使用して自己確認を行っている。法人より配布された高齢者虐待防止テキストを活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月利用されている入居者がいるので、来設時話し合いの機会を設け情報交換を行っている。 支援が必要と思われる入居者・ご家族には、制度を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書類を渡して、自宅で確認する時間を設けている。入居時や退去時の相談時不安や疑問などの聞き取り時間を設け納得したうえで入居・退去を心掛けている。介護保険改定の際、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「気付いたことがありましたら遠慮なく相談して下さい」とのプラカードを掲げている 玄関に政本グループが目指す介護サービス7項目が掲示してあり本部の連絡先が載っている。 ホーム来設時や請求書を渡すとき・運営推進会議等に参加された御家族様からの意見や感想をホーム運営の参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与、勤務疑問110番・政本グループ人事委員会からの相談受付等事務所に貼りだしをしている。職員会議、1号館・2号館合同ミーティングなどで、意見交換を行っている。 社内研修において職員間でホームの改善点や運営について話し合いを行い改善に役立		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産性改善委員会を立ち上げ残業ゼロを目指している。 基本給の引き上げや地域手当の加算だけでなく、実績に応じた手当支給や利用率による達成手当及び経験・技能のある職員を中心とした特定達成手当が支給される。有給休暇の取りやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修の他、毎月の社内研修や管理者研修等、法人内での研修の場を継続的に設置している。 月給正社員規定、日給正社員規定が定められ、社員研修(G課程)を行っている。 外部研修の際にはシフトの休暇を優先している。資質向上のための計画が掲げられており、資格等取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は可能な限り介護職員を実態調査等に同席させる事によって、同業者との交流・人脈づくりを支援している。 入居相談時ケアマネージャーや相談員をホームに招き入れ、活動内容や状況を話し合っている。職員を研修に参加させることにより他事業所の職員と交流機会ができた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて事前面談や見学を数回実施して、ご本人との信頼関係構築に努め、ご本人が納得された上での入居に至るよう心掛けている。実態調査をホームで行うなどして実際に雰囲気を見ていただき、ユニット職員も調査内容に目を通し把握するよう努めている。実態調査がホーム外でも職員も同行し対話の場を設け、嗜好や趣味などを伺い信頼関係を築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に、数回にわたって相談の場を設定し、相談までの経緯や今後のご希望を詳しくお聞きする事により、ニーズの把握や信頼関係の構築に努めている。入居相談の際、必要であればユニットの職員も同席して面談を行っている。自宅で習慣にしていたサプリメント・飲料水など継続できるよう支援していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや病院関係者等とも連携し、当ホーム入居だけに固執せず、他系列・他種サービス等の他事業所への紹介も含めて、最善のサービス提供方法を検討している。持病や治療中の歯科など家族の支援も含め継続して行えるよう話し合いを行っている。初回ケアプラン作成にあたり本人・家族の望まれていることの聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いを通してのレクリエーションや生活リハビリをはじめ、入居者・職員がお互いに支えあえる雰囲気づくりに努めている。モップかけや手すり拭き・家事支援などの手伝いをされています。ラジオ体操・嚙下体操など職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の企画に家族の方に参加していただき、関係作りに務めている。玄関や庭先にて面会を行っている。家族が来設され喫茶店に行かれました。野菜や果物の差し入れを頂き食材として利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味の会の教え子が作品展に招いて頂き交流が続いています。コロナウイルスで外出や面談に影響でありますが、昔の写真を見て思い出話をされました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	パズル・数字合わせ・カルタやトランプなど複数の利用者で行い教えあっている。気の合う者同士・合わない者同士の把握し人間関係の調整に努めている。ラジオ体操・リハビリ体操を行い声を掛け合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から手紙などを頂き返事を送りました。 転居先に定期的に出向き面会や話を伺いに行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に散歩に出たい要望があれば出来る範囲で行っている。 ケーキやアイスクリーム・など購入して食べて頂いている。 夏はかき氷を作ったり、庭先でおやつを食べたりして楽しみを作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居生活の方は近隣の方が定期的に来設され情報を頂いている。入居後も家族・関係者から情報を収集し、入居前から続けていた飲み物などの差し入れなど継続して出来る様、職員が情報を共有できるよう努めている。実態調査時、以前の暮らしや生い立ちについて話を伺いながら情報収集を行っている。以前のケアマネと繋がりを保ち情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護詳細記録を毎日書くことにより、状態を細かくチェックしている。 看護記録を確認し状態の把握に努めている。必要であれば毎日の検温・血圧計の測定・入浴時は全員測定をしている。 朝礼時変化のある利用者の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に、ご本人の望む生活、ご家族の要望を事前に文章にて伺い、介護計画作成時に役立てている。 毎月家族の来設時近況報告を行い意見を頂いている。 サービス担当者会議を開き現状の課題など話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・詳細記録・看護記録・ノート等を利用して心身の状態把握に努め、業務に入る前に読み口頭での申し送りと2重で行っている。 フロアミーティングやミニカンファを定期的に行い、日々の気づきを話し合い介護計画の見直しに活かしている。 服薬の変更等職員全員が把握できるよう申し送りノート・受診記録に記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得られない方に対し、身の必要物品の買い物等支援している。急変時家族で対応できない時など、受診の付き添い及び救急対応・救急車の同乗・入院の付き添いを行い、なるべく退院出来るよう医師・家族と話し合いの場を設け退院支援を行っている。時間外の面会・入居相談にも対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や地域の自主防災訓練や店舗にも積極的に出向き、緊急時にもスムーズに協力していただけるように連携を図っている。 介護タクシーや介護用品業者との関係を強化し、様々な要望に対応できるようにしている。 近隣の喫茶店・コンビニ・ドラッグストアに出向き相互的に関係を築いている。(コロナで一時中断)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診の他電話相談もできる。 往診来診時、病状の相談にも対応していただいている。 事前にファックスを流すことにより、必要な処置をスムーズに行うことができる。歯科の場合は治療の他口腔ケアも行っている。 内科・皮膚科・歯科の訪問診療があり施設内でも充実した治療を受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤時、状態や症状を伝え受診の必要性などアドバイスを頂いている。 介護記録、介護詳細記録、受診記録、往診ノートを活用し看護アドバイスの活用に繋げている。 出勤時以外は電話・メールにて情報の共有を行っている。必要時主治医に相談連絡を入れる。 職員は看護記録の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、家族・病院関係者との日程を調整し情報交換を定期的に行い、早期退院・帰所を目指している。 協力医や看護師からも、積極的な調整協力を頂いている。入院時ADL報告書を作成し医療従事者が対応しやすいよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった場合、個別に話し合いの場を設けて方針を決めており本人・ご家族の意向に沿うべく、看取りだけではなく、医療機関や他施設への転居等も含めて最善の対応に努めている。入居時や運営推進会議等でも家族から意見を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、主治医に電話相談を行い緊急性の判断を頂いている。社内研修の他、緊急時の対応手順書を掲示しており、落ち着いて対応が出来るように準備している。救急隊への情報提供表・ADL報告書も定期的に見直しをし、救急隊に渡すことができるよう準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災情報一覧表を作成しており、ライフラインの連絡先がまとめている。実践的な避難訓練を5月と11月に(昼間想定、夜間想定)実施している。5月は水害訓練実施。災害対策マニュアルが事務所に掲げてあり、いつでも閲覧することができる。毎朝自衛消防組織担当の確認を行っている。自治会の防災訓練に参加することにより、協力体制が取れるよう努めている。保存食の期限の確認・ランタンの準備をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応にならないよう、職員会議や毎日の朝礼時・ミーティング・職員会議等によって接遇の徹底を図っている。 利用者の気持ちや言葉を受け入れ、できる限り丁寧で安心できる言葉遣いを意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯の量や新聞を読みたい方の個人購入など、可能な限り本人の希望に合わせた対応をしている。 職員が積極的に話しかけ、会話の中で利用者の思いややりたいことなど意見を聞くよう心掛け、出来る範囲で対応している。 自己決定しやすいよう簡潔に話をしている。 洗濯物を出したい方は籠を用意し洗濯を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって生活の場であることを常に意識して、書き物やゲーム、新聞を読む時間を作り、毎日を穏やかに過ごせるよう、支援に努めている。 居室で過ごされたい方は自由に横になる時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の店舗に季節に合った洋服を買いに行ったり、爪切りなども定期的に行っている。 理美容時髪長さやパーマ・毛染めなど本人の希望に合わせて対応している。リップクリーム・乳液・ヘアクリームなど購入され使用している。 産毛剃りを使用している方は職員が手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下や咀嚼の状況をみながら、食事形態を定期的に評価し食べやすい形状で提供している。 プレートを使用した食事やパン食なども取り入れている。 利用者同士の関係に変化がある場合、席替えをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況により個々に食事量を考慮し提供している。 夏場など暑い時期は食事前にお茶を提供し脱水防止に努めている。嚥下の状態が悪い方は刻み食やミキサー食を提供し栄養確保に努めている。個別に珈琲・電解還元水・ヤクルト・プリン・アイスクリーム・ゼリーなどの提供を行っています。医師より栄養補助食品の処方をして頂いている方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の協力を得て、定期的に口腔内の健診を受けている。食後に口腔ケアを行い、誤嚥防止のため口腔内の確認が必要な方は職員が確認を行っている。ポリデントを使用し入れ歯の清潔を心がけている。歯ブラシやコップの清潔保持にも気をつけている。総入れ歯・ブラッシングできない方はうがいをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が保てない方に2人介助にて、1日1回以上トイレでの排泄を行っている。 定期的に声かけをして介護拒否がある方もトイレでパット交換できるよう努めている。 立位の保てる方はトイレで排泄し、ズボンの上げ下げが出来る方は自分でできるようケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族の支援による水や乳酸菌飲料の提供なども行っている。 適切な水分摂取量の維持や毎日の散歩やラジオ体操を取り入れている。 便通によりバナナやヨーグルトの提供をしている。 必要に応じて主治医・看護師と相談して便秘薬の量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順にこだわりのある方には極力要望に応じられる様、順番表を作成して対応している。 1日おき～週2回等、入浴頻度も固定していない。希望に応じて個別対応や人間関係に配慮し、柔軟に対応している。湯船につかりたい人、シャワー浴がいい人など個別に対応している。体調の悪い方には清拭や陰部洗浄を行っている。ゆず湯など季節のわかる工夫や足湯をされている方もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で休めるよう支援している。 重度化された方などはクッションを使用したりして、楽な姿勢になる様に工夫をしている。 光や温度の調節を行っている。 浮腫のある方は足を挙上して休まれている。 寝具の清潔を保ち睡眠の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には飲み込みまでの確認を行っている。 入居時など薬が多い方は主治医に相談し、適切な量になるよう調整を行っている。処方箋を協力薬局にて一元化して管理している。薬の一覧ボードを作り一目でわかるようにしている。薬の変更時、申し送りノートや受診記録に記入し職員皆が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	珈琲や紅茶を飲まれる方が多く、味の濃さも個別に合わせている。カルタ・数字合わせ・トランプなどを利用者同士で声を掛け合いながら行っている。食器拭き・掃除機かけ・洗濯物たたみ・モップかけ・手すり拭きなど、その人に合った手伝いを行っている。 散歩や外気浴・喫茶外出をする機会をつくり気分転換を図っている。趣味の書道や裁縫が活かせるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭でおやつを食べたり散歩・外気浴を行っている。 毎年の外出行事には、ご家族の参加も募っている。季節によってピクニック・紅葉狩りなど行います。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では事業所が金銭管理を代行している。コロナウイルスの影響で外出自粛により、職員が食べたい物や必要な物を聞き取り、買い物を代行している。金庫管理者を増やすことにより、事前に用意をし柔軟に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	封書・便箋の用意をして家族との関係を維持している。 外部から葉書等届いた場合は家族にも連絡し見せていただいている。 必要であれば、日常的に電話を使用できるように支援している。 普段から文字が書けるよう毎日練習をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に暖簾をかけて雰囲気作りに努めている。季節毎に利用者として作成したちぎり絵(花・風景)、行事の写真やポスターを作成しリビングに貼り季節感を出している。湿度や温度はデジタル温度計を使用し調整を行っている。昼間はカーテンを開け明るくして定期的に換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はどこでも自由に過ごせるようにしており、リビングを椅子席とソファスペースに分け、自分の好きな場所でくつろげるようにしている。定期的に状況を見てソファの位置やテレビの位置を調整し利用しやすく工夫している。 座布団を持ち運び自分の場所を確保している方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床にカーペットを敷いてテレビを観たり、和風の生活空間を楽しまれている方もいます。自宅から持ち込んだ家具やテレビ等設置する際、自由に持ち込み使用している。 飼っていたペットを思い出せるよう、関連ポスターを部屋に飾られている。書道や若い頃の写真の作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印など場所がわかりやすくしてある。 シルバーカーや車イスで自走できるバリアフリーや電動ベッドの導入・立ち上がり手すり・トイレに設置されている可動式レバーなどがあり、安全に生活するための環境が施してある。福祉用具・備品に不備がないかチェックし、安全に使用できる		